

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 31 日現在

機関番号：51601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381166

研究課題名(和文)被災地における中高年女性への起業支援手法の開発

研究課題名(英文) Development of Supporting Method for Middle-aged Women Entrepreneurs in Stricken Area

研究代表者

西口 美津子 (Nishiguchi, Mitsuko)

福島工業高等専門学校・ビジネスコミュニケーション学科・教授

研究者番号：40648911

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、キャリアの履歴を分析するツールである「マトリックス履歴書」を用いて、被災地の中高年女性の起業を支援する手法の開発を目指したものである。まず、歴史上や実在する女性起業家のマトリックス履歴を分析することで成功に必要な要素を洗い出した。次に中高年女性へのアンケート調査により地域に必要とされる起業や能力開発のニーズを明らかにした。さらに、中高年女性を対象としたセミナーを実施すると共に、参加者からの声を反映し、今後のセミナーや能力開発に活用できる「女性のための起業マニュアル-未来は自分で切り開く!-」(161頁)を制作、地域の女性等に配布した。最後に、研究の成果を国内外の学会で発表を行った。

研究成果の概要(英文)：This research aims to develop a supporting method for potential or existing women entrepreneurs, particularly focusing on those in disaster-stricken area. First, success factors of women entrepreneurs were analyzed by using "Matrix Resume" that is a tool of analyzing the individual careers, along with relevant interviews. Second, inquiries were made for middle-aged women in order to clarify the needs for business and human resource development courses. Thirdly seminar for potential and future women entrepreneurs were made, reflecting their needs of business knowledge and inviting women entrepreneurs. Finally, a manual for women's future entrepreneurship has been developed. It is consisted of six parts including entrepreneurs' case study by using Matrix Resume, framework for starting business, business plan and accounting, etc. In addition, presentations at academic conferences were made domestically and internationally.

研究分野：経営学

キーワード：女性 起業支援 能力開発 キャリア

1. 研究開始当初の背景

太平洋岸の被災地は、海産物加工や農業の6次産業化等、従来、高齢者の主要な雇用先であった産業の復興が進んでおらず (JILPT Discussion Paper13-02,2013年7月)その結果、震災前から高齢化の進んでいた被災地は、高齢者の自立が課題となっていた。たとえば、福島県いわき市の年齢構成は、男性に比べ60歳以上で人口の多い女性の自立と労働への参加は、団塊の世代の高齢化と共に喫緊の課題となっていた。

我が国における女性の起業支援についての先行研究が少ない中で (大石友子: 女性起業家及び管理職創出に必要とされる支援について—日米支援機関調査から—, 京都学園大学経営学部論文集, 2011年)、復興農業の視点からの研究が始まると共に、起業支援策の研究も行われ始めた (鹿住倫世: 職業訓練不足の女性に対する起業支援策の研究, 科研費採択課題, 2013-2016年)。

女性の起業への期待が高まる中で、研究代表者らは、自分達の考案した「マトリックス履歴書」が、地域に貢献する人材のキャリア形成、わけても中高年女性の起業支援に活用できるのではないかと考えた。「マトリックス履歴書」は、技術者のスキルの明確化のために、履歴書の新たな記述形式を模索する中で、連続しない多様なスキルの記述が容易で、キャリア・アンカーとの親和性が高い様式である (大野・西口: マトリックス方式による職歴情報の評価とキャリア設計の検討, 情報処理学会研究報告, 2013年)。「マトリックス履歴書」は、スキルをキーワードとして記入する等、汎用性が高い。履歴書やジョブ・カードのように、他者に見せる為ではなく、自分自身のスキルを再確認するのに適している。中高年女性の起業を支援するツールとして期待される様式である。

2. 研究の目的

本研究は、「マトリックス履歴書」を活用することで、被災地の中高年女性の起業支援のための手法を開発することを目的としている。東北大震災で津波被害を受けた太平洋沿岸部では、過疎化や高齢化が進む中で、雇用創出に繋がる起業家の育成が地域再生のために求められている。しかし、従来の起業支援は、起業に興味がある者を対象としており、今後、活躍の期待される中高年女性向けに行われているものは非常に少ない。そこで、多様なスキルの記述が容易でキャリアの分断にも柔軟に対応できる「マトリックス履歴書」を活用し、被災地の中高年女性のための「起業支援手法」を、一般的な製品開発プロセスを用いて開発する。さらに、「起業支援手法」の検証を行うと共に、「起業支援マニュアル」の作成も行う。

3. 研究の方法

研究目的を達成する為に、4つの段階に分

けて研究を行った。第1段階と第2段階を平成26年度、第3段階を平成27年度、第4段階を平成28年度に行う。第1段階では、被災地は元より国内外で行われている起業や起業支援に関連する資料や文献を広く収集、分析する。第2段階では、被災した地域の公共機関等へのヒアリング調査や、中高年女性へのアンケート調査を行い、起業や能力開発のニーズを把握した上で、「起業支援手法(案)」を提示する。第3段階では、「起業支援手法(案)」に基く、「マトリックス履歴書」を用いた中高年女性への「新規起業セミナー」を公共機関等に提案、実施する。セミナーを繰り返す中で「起業支援手法」を確立する。第4段階では、第3段階で得られた「起業支援手法」の検証と報告書の作成を行う。また、研究の成果として得られる「起業支援マニュアル」をWebページ上で情報提供する。

4. 研究成果

(1) 中高年女性へのアンケート調査の実施

代表者らは、被災地における女性起業家へのヒアリング調査を行い、各自に「マトリックス履歴書」を記入してもらい、起業家の成功要因について分析を行ってきた。

そうした中、地域における中高年女性の起業についての意識と具体的な能力開発ニーズを知るために、アンケート調査を福島県内で行うことにしたものの、被災による住民の移動や生活基盤の立て直しが優先される中で、中高年女性にアクセスすることは容易でなく、同地域に居住する福島高専コミュニケーション情報学科の保護者を対象にアンケート調査を行うことにした。15歳~20歳の子供の母親であれば、対象とする中高年女性に該当すると考えられるためである。平成27年1月20日から2月2日までの間で、郵送による調査票の回収を行った。その結果、発送総数212件のうち、保護者の女性127人より回答を得ることができた。

回答者のうち40代が66.1%、50代が29.1%と、両者を入れると95.2%にもなった。また、自己のキャリアで重視するものを3つまで回答してもらったところ、半数以上が「生活重視」(82.7%)や「安定」(56.7%)を挙げたものの、40.2%が「専門能力」を挙げ、「独立」や「社会貢献」を挙げる者が2割以上いた(それぞれ26.0%、24.4%)。また、「経営管理」、「挑戦」、「起業」といった将来の起業に関わる項目を挙げた者は少なかった。生活重視や安定は、子どもの生活を第一に考える母親と言う立場を考えると納得できるものであり、また、専門能力がそれ以外のものよりも高いことは、今後、子どもの手がかからなくなっから、より専門性を深め、「挑戦」、「起業」、「経営管理」と起業家育成モデルへと進む可能性があることを示しているともいえる。

回答者の従事する産業で、最も多かったのは「医療・介護関係」の従事者で、21.2%を占めている。次に、「生活関連」、「宿泊・飲食業」が共に12.1%、卸売小売業が10.1%と上位4つの業種で半数以上を占めている。さらに、「金融・保険業」(8.1%)、「教育・学習支援業」(8.1%)、「学術研究、専門・技術サービス」(5.1%)、「不動産・物品賃貸業」(4.0%)を入れると、全体の8割以上がサービス産業に従事していることがわかった。

(2) 中高年女性の起業に対する意識

回答者が起業についてどのように考えているかを知るために、今まで起業について考えたことがあるか否かを尋ねた。その結果、4.8%が「起業の経験がある」と回答し、24.6%が「あるが実行せず」と回答し、3割近くが起業を考えたことがあることがわかった。しかし、「特にない」と「全くない」を合わせて、70.7%を占めていた。また、知人や友人、親せき等による起業の例を尋ねたところ、全体の36.2%が「あり」と回答し、「ない」と回答した63.8%に比べると半数近かった。また、「起業経験あり」と回答したうちの67%が、実際に起業した知人や友人、親せきを持つものに対し、「全く起業を考えたことのない」人には、起業した知人、親戚等を持つ割合が26%にすぎなかった。

また、起業を行う上での障害としては、資金(69.9%)、経営のノウハウ(61.2%)、新たなことに取り組む不安(43.7%)が続いた。回答者が高専生の保護者であり、教育資金の必要な状況にあることを考えると、資金が最大のネックになるというも頷ける。一方で、これらは、たとえば、集合セミナーを実施し、その中でビジネスの知識を提供、参加者や講師との間のネットワークを形成することで得ることができると思う。地域に必要な起業と身近な起業について、自由記述形式で尋ねるKJ法を用いて分析を行った。その結果、子育て支援について述べた人が、最も多く、高齢者・障害者支援が次に多かった。それに対し、身近な起業では、専門・技術サービスが最も多く、飲食・宿泊が次に多かった。すなわち、子育てや高齢者・障害者への支援が必要であるにも関わらず、実際にその分野での起業はそれほど多くないことがわかる。具体的な専門・技術サービスの内容については、美容やネイルやエステ等に女性に関わること以外にも、設計やウェブ設計等、男女に拘わらないものもあった。

ここで、地域に必要な起業の特色としては、農業関連を除くと、すべてサービスに関連した仕事であることがわかる。身の回りの起業は、採算性の成り立つものであるが、女性たちは、地域に必要な起業として、採算性を重

視する一方で、社会的な有用性や必要性を意識していることがわかる。そして、それら地域に必要な起業についてこそ、ある程度金銭的社会的な実績のある中高年、あるいは経済的に余裕のある高齢者が担うべき起業の分野と言えるのではないだろうか。このような女性にとって「地域に必要な起業」と「身の回りの起業」の内容に乖離があることが、一般的なことなのか不明であるが、地域に必要な起業に子育てや高齢者を挙げる背景として、震災の影響として「家族の大切さに気付いた」ことを挙げた回答者が多かったことと無縁でないように思われる。実際、回答者の半数近くが、震災前後での仕事に対する考え方の変化として何らかの影響があったかと述べている。

また、起業に相応しい年代についても尋ねた所、「年代は関係ない」が51%を占めており、それ以外では30代、40代、20代が多かった。50代は2%、それ以外の20歳未満や60代、70代以降は皆無である。また、相応しい年代について回答した118人の内、66%がコメントを寄せ、年代に関する女性の関心の高さを示した。各年代のコメントに表出するキーワードを長所と課題に分類した結果、20~30代で子育てとの両立を懸念するコメントがあった。

中高年女性が起業を行う場合に必要な職業能力を挙げてもらったところ、図2に示すように、経営知識が最も多く、リーダーシップ、会計知識、経営者とのネットワーク構築が挙げられた。これらは、近年、日本においても増加した欧米流のビジネス・スクールで教える内容でもあり、東京都内では、多くの大学やサテライトオフィスが夜間に社会人向けとして開講している内容であるが、福島高専のあるいわき市のような地方都市には必ずしも十分とはいえない。

また、具体的な起業に役立つ能力開発としては、起業経験者自身の体験談を聞きたいというのが圧倒的に多かった。知識の乏しい学生と異なり、社会人経験のある中高年女性にとっては、机の前に座って聴講するセミナーよりも、ロールモデルともなる生身の講師から聞く生々しい体験談の方が、自分にとって役に立つというのは、共感できるものである。聴講する中高年女性の期待を考慮すると、体験談を共有できる起業家を講師として確保することが必要になる。

最後に、どのようなコースにすると集客できるか参考にするために、興味ある能力開発分野について尋ねたところ、半数以上(57.5%)が資格取得コースと回答した。また、開催時期としては、夜間よりも休日の実施を望む声が多く、参加費の無料化や受講後のフォローを期待する声もあった。

アンケート調査での結果と、過去のキャリア形成支援²²や職業能力開発の実践²³で用いられたフレームワークを参考に、また、今後PDCAサイクルによる実行、評価を経て改善が行われることも考慮した、起業家育成に向けた能力開発コースのフレームワーク（概念）案を図1に示す。「I自己分析」、「II地域理解」、「III経営知識の習得」、「IVネットワーキング」から構成され、IとIVが地域や参加者に依存しないカリキュラムであるのに対し、IIとIIIは、地域や受講生の特性によって柔軟に対応を行うものである。

具体的には、「I自己分析」は、新規受講生が集まる毎に提供する。自己分析のためのツールや手法としては、エゴグラムを初め、マトリックス履歴書の記入、さらには、ジョハリの窓等、一般にキャリア形成論で扱う様々な手法による自己分析が考えられる。「II地域理解」では、地元の産業や特色を知るために、「起業家の事例紹介」を初め地域の伝統産業や、女性の興味を持つような実習等も取り入れる。そのため、多くの選択肢（カリキュラム）の中から、受講生にあったカリキュラムを提供してゆく必要がある。また、「III経営知識の習得」においても同様に、起業に必要な「ビジネスプランの作り方」を初め、マーケティングや会計等、経営に必要なカリキュラムを必要に応じて組み合わせて提供する。最後の「IVネットワーキング」では、起業を目指す人や、すでに起業した人とのネットワーキングの場を設定する。

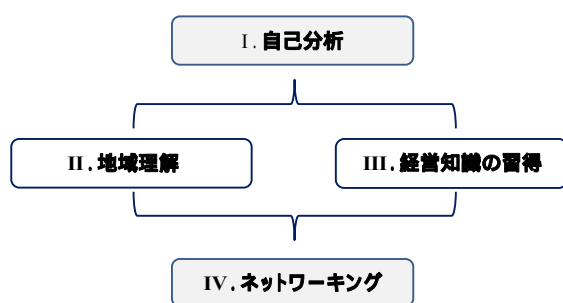


図1 能力開発コースのフレームワーク

(3) 起業支援セミナーのカリキュラム

前節で述べた能力開発のフレームワークを踏まえ、また、アンケート調査から得られた受講生確保のための要件を考慮して、中高年女性の起業支援セミナーを実施することにした。具体的には、2日間の「親子で学ぶ実践ビジネス」と、その改良版ともいえる「女性のための就業・起業準備セミナー」という2つの異なるセミナーである。表1と表2にそれぞれのカリキュラムの概要を示す。

表1 親子で学ぶ実践ビジネスの内容

実施時間	内容
1 日目：10～12 時	自分を知ろう～ビジネスに向けた自己分析（I）
13～15 時	ものづくりのアイデアとヒント～一枚の紙で何が出来る？（II）
15～17 時	福島（いわき）のできる仕事って何？ （II、III）
17～18 時	懇親会（IV）
2 日目：10～12 時	IT を活用したビジネス（III）
13～13 時半	お店紹介レポート（II、III）
13 時半～16 時半	儲かった？それとも損した？～私にもできるビジネスプラン（III、IV）

表2 就業・起業準備セミナーの内容

実施時間	内容
1 日目：13 時半～15 時	自分を知ろう～ビジネスに向けた自己分析（I）
15 時～17 時	地元を知ろう～福島県（いわき）の起業家の事例（II、III）
2 日目：13 時半～15 時	資格・IT を活用したビジネス（III）
15 時～17 時	パソコンを活用したビジネスプランの作り方、ビジネスゲーム（III、IV）

(4) 起業支援セミナーの実施と評価

福島県いわき市において実施した「(A) 親子で学ぶ実践ビジネス」と「(B) 女性のための就業・起業準備セミナー」の概要を表3に示す。共に、女性のための起業支援セミナーでありながら、前者は子供である中学生を、また、後者では起業のみならず就業を含めたのは、範囲を広げることでより多くの中高年女性の参加者を得て検証を行うためである。共に、連続した土曜日2日間のコースながら、前者は、対象を福島高専への入学を検討する中学生とその母親とすることで、また、後者は、実施場所を JR 駅前のアクセスの便利なところに設定することで、女性参加者の確保を狙ったものである。

特に、(A)では、市の教育委員会を経て中学校にも配布を依頼した。(B)では、就業希望者を考慮し、市内のハローワークと国の能力開発施設（ポリテクセンター）に出向いて内容を説明すると共に、チラシを置かせてもらうことにした。また、講師の配置や全体のコーディネートは研究代表者が行い、講師には、福島高専の現役あるいは元教員、そして地元に関係する起業家やITの専門家に依頼した。

コース実施日に行った受講生へのアンケート調査で、セミナーに参加した理由として多かったのは、「コース内容」、「講師陣」で

あるが、「(B) 女性のための就業・起業準備セミナー」では、「起業に興味」も「コース内容」や「講師陣」と並び高かった。改めてコース内容と講師の重要性を確認すると共に、「(A) 親子で学ぶ実践ビジネス」では、受講生から「起業に興味」や「就業に役立つ」よりも「高専への興味」を問うなど、受講生確保を優先させるあまり、起業支援の目的までも薄まってしまった感が否めない。

なお、最も多くの参加者が「印象に残った」と回答したのが、(B)の「地元理解」で発表した女性起業家の講演であった。米国留学後、塾講師を経て地元で学童保育と英語、体験型学習を組み合わせた会社を営む女性起業家の話は、「キラキラオーラを浴びて、元気が出た」、「子ども好きな気持ちの軸がぶれていないと感じ、パワーをもらった」、「いわきにこんな元気な女性経営者がいて嬉しかった」等、講師を賞賛するものが多かった。

表3 起業支援セミナーの概要

項目	(A)親子で学ぶ実践ビジネス	(B)女性のための就業・起業準備セミナー
実施日	平成27年9月19日、26日(土)	平成28年3月12日、19日(土)
時間	6時間(午前・午後)×2日	3時間(午後)×2日
場所	福島工業専門学校 コミ科棟教室棟	JRいわき駅前産業 創造館6階会議室
対象	中学生とその母親 (父親、単身も可)	女性全般(男性も 可)
参加費	無料	無料
募集定員	20組(大人:25人、 中学生:25人)	1日目:50人、2 日目:30名
募集方法	市内中学校、高専 コミ科保護者、公民 館、地元新聞等への 案内、産学連携機 関メールリンク、高 専Web等	ハローワーク、ポ リテクセンター、 公民館、地元新聞 等への案内、産学 連携機関メールリ ンク、高専Web等

さらに、「ビジネスプラン」では、「実際の具体例から想像力、推理力を引き出され興味深かった。(弁当販売の例)」や、「演習を行ったことで、ビジネスについてより深く理解することができた」等、実践性を評価するものが多かった。逆に、ITに関するコースでは、「専門用語が難しい」、「講話だけだと集中力が持たない」といった声が寄せられた。IT業界には、若手起業家も多く、またネット販売等を副業にしている主婦もいるが、範囲が広く進歩の激しい分野でもあり、導入の仕方に再考が必要であることがわかった。

また、「女性のための就業・起業準備セミナー」において、工夫が必要なこととして、「主婦を対象にするのであれば、平日開催、また託児などがあると参加しやすい。」、「も

っと大きく広告した方がいい」、「3月以外の月が良い」という意見があった。その他コメントとして、「同世代ばかりで安心した。皆さんとも、いろいろ話してみたかった。」「起業のために必要な一歩は周りのサポート。現段階の世の中では、一人でやるには少々きつそう。」という意見もあった。

(5) 受講生確保の難しさと参加者の意欲

今回、セミナーの実施で直面したのは、第一に参加者確保の難しさであった。当初見込んだ募集定員の半以下であり、「知人の紹介」が最も多く、ホームページや新聞等による参加は少なかった。これには、まず第一に同時期に他のイベントやセミナーと競合した点が挙げられる。たとえば、「女性のための就業・起業準備セミナー」については、開催の同月に市の男女共同参画センター主催のセミナーがあり、それに先立って1月から2月まで「いわき起業家養成セミナー」が、県の商工会連合会主催で行われるといった具合である。また、ハローワークやポリテクセンターを直接訪問しセミナーの説明を行った際にも、前者では、復興需要が続く浜通りの有効求人倍率の高さからセミナーに人材が集まりにくいことを指摘され、また、後者ではものづくり系以外の能力開発を行っていないので、女性受講生の数が非常に少ないことを指摘されたりした。

一方で、セミナーに参加した3名の中高年女性はおしなべて、起業や就業への意識が高いことも分かった。実際、講座に対する満足度は、「大変満足」が2名、「満足」が1名であり、講座への興味の程度も、3名共「興味深い」と回答している。また講座内容の難易度は、「普通」が2名、「少し難しい」が1名で、講師の説明については、3名共「わかりやすい」と回答している。まずは、参加者を一定数集めることは、今後能力開発コースを運営する上でも重要なが、まずは、小規模ながらも意欲のある人材を集めて徐々に受講者を増やしてゆくことも、女性の起業支援という社会的に重要であるが一般的ではないコースを実施するために必要なことのように思われる。

(6) 起業支援セミナーの課題と提起

中高年女性のための起業支援セミナーの開発、実施を経て得られた課題と今後への提起として、以下の3点を挙げたい。まず、第一に、起業に関心のある中高年女性が集まるような仕組みづくりの必要性が挙げられる。本研究では、起業支援セミナーの受講生確保に苦労する中で、単発でセミナーを実施する難しさを実感することになった。起業に興味のある中高年へアクセスするための方法は、

広報メディア戦略の観点からも検討する必要がある。

第二に、中高年女性にとって魅力的なカリキュラムを開発、提供し続けてゆくことである。「女性のための就業・起業準備セミナー」で、地域の起業家への評価が非常に高かったように、女性経営者の話は起業を志す同性に刺激と勇気を与えることになる。

第三に、中高年まで待つのではなく、若年者等、早期での起業準備コースの検討の必要性である。日本の高等教育機関では、経営学の一部に新事業開発や起業関連の科目を取り入れているところもあるが、初等中等教育では一般的ではない。とりわけ、女性にM字カーブで知られる30代から40代前半の離職が多いことを考慮すると、より早期から起業がキャリアの選択肢の一つとして意識できるような仕組みづくりが必要と思われる。

(7) おわりに

文献調査、「マトリックス履歴書」を活用したヒアリング調査、中高年女性へのアンケート調査、そしてそれらの調査に基づくセミナーのためのカリキュラム開発とセミナーの実施、その参加者へのアンケート調査と一連の研究のプロセスを通して、最終的に「女性のための起業マニュアル - 未来は自分で切り開く! -」(161頁)を残すことができたのは、本研究の成果の一つである。しかしながら、それは、「中高年女性への起業支援手法の開発」の通過点に過ぎず、今後はセミナーを続け参加者を増やすことでマニュアルの一層の精緻化が求められる。

一方、東日本大震災から7年が過ぎ被災地の復興が進む現在、クラウドファンディング等のインターネットを用いた新たな資金調達手法が注目される等、起業の機会がより身近なものになりつつある。インターネットの急激な普及や外国人観光客の増大、さらには2020年の東京オリンピックによる経済効果等、日本におけるサービス産業の進展や働き方のパラダイムシフトが起る中で、今後の女性起業家支援に本研究が役立てば幸いである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

西口美津子・渡部美紀子・芥川一則・大野邦夫：中高年女性の起業家育成に向けた能力開発コースの検討(査読付)産業教育学研究 47(1) 21-28, 平成 29 年 1 月

大野邦夫・渡部美紀子・西口美津子・末永早夏：異文化交流スキルを有する女性起業家に関する研究, 情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report, pp.1-8, 2015 年 3 月

Kunio Ohno, Mikiko Watabe, Mitsuko Nishiguchi, “A Study on the Human Resource Development for Entrepreneurs toward Future Network Society”, Proceeding of the Fourth

IIEEJ International Workshop, IEVC, pp.1-8, October 2014

〔学会発表〕(計 6 件)

Mitsuko Nishiguchi, Mikiko Watabe, Kunio Ohno, “Development of Entrepreneurs’ Manual for Women”, the 13th AASVEET Annual Conference, Seoul, Korea, Oct 2017

Mitsuko Nishiguchi, Mikiko Watabe, Kunio Ohno, “Impact of Crowdfunding on Early-Stage Women Entrepreneurs in Japan”, 16th International Entrepreneurship Forum Conference, Katmandu, Nepal, Sept 2017

Mitsuko Nishiguchi, Mikiko Watabe, Kunio Ohno, “Analysis of a Successful Entrepreneur using Visualization Tools - Case of the Pokemon Creator -”, 5th IIEEJ International Workshop on Image Electronics and Visual Computing 2017, Da Nang, Viet Nam, Feb 2017

Kazunori Akutagawa, Kunio Ohno, Mitsuko Nishiguchi: “Human Resource Development of Women Entrepreneurs in Fukushima with Intercultural Historical View”, SITAR Europa World Congress, Valencia, Spain, May 2015

西口美津子：地域の活性化に向けた中高年女性の起業と能力開発, 日本産業教育学会第 56 回大会, 和歌山大学, 2017 年 10 月

西口美津子：マトリックス履歴書から考える女性のキャリアと起業～イノベーションの視点から, 画像電子学会第 44 回年次大会, 2016 年 6 月

〔図書〕(計 1 件)

西口美津子・渡部美紀子・芥川一則・大野邦夫：女性のための起業マニュアル - 未来は自分で切り開く! - ,pp.1-161, 福島工業高等専門学校ビジネスコミュニケーション学科, 2017 年 4 月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西口 美津子 (Mitsuko Nishiguchi)
福島工業高等専門学校・ビジネスコミュニケーション学科・教授
研究者番号：40648911

(2) 研究分担者

渡部 美紀子 (Mikiko Watabe)
宮城学院女子大学現代ビジネス学科・准教授
研究者番号：30413735

(3) 連携研究者

芥川 一則 (Kazunori Akutagawa)
福島工業高等専門学校・ビジネスコミュニケーション学科・教授
研究者番号：40310990

(4) 研究協力者

大野 邦夫 (Kunio Ohno)
株式会社モナビ IT コンサルティング研究部門長